

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第5学年国語科学習指導案

単元名 事例と意見の関係に気を付けて読もう ～筆者からのメッセージを受け取ろう～

学習材名「想像力のスイッチを入れよう」(光村図書出版 5年)

「想像力のスイッチを入れよう」(講談社 下村 健一作)

日 時：令和5年2月2日(金)5校時

児 童：立川市立若葉台小学校 第5学年1組 30名

指導者：立川市立若葉台小学校 主任教諭 浅野 剛基

1 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使うことができる。
(知識及び技能)
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を元に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。
(思考力、判断力、表現力)
- 言葉がもつよさを認識し、目的に沿って自らの考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりして、文章に書かれていることがらを整理したりまとまとめたりしている。 ((2) -イ)	○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さええている。 (C - (1) -ア) ○「読むこと」において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C - (1) -ア)	○要旨をとらえるために、自ら学習計画を立て、既習を生かしたり、友達と交流したりして、粘り強く学習を進めている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

児童はこれまで、「読むこと」説明的な文章の学習において、1学期に「見立てる」「言葉の意味が分かること」、2学期に「固有種が教えてくれること」の文章を学習材として、要旨を把握し文章にまとめることを学習してきた。

「見立てる」「言葉の意味が分かること」では、筆者の主張が冒頭や最後に直接的に記されている「双括型」の文章であることや、そのほかの構成として「頭括型」「尾括型」があることも学習した。述べられている原因と結果とのつながりや必要な情報を整理し、筆者の主張を見付けることはできた。しかし要旨を文章にまとめることについては初めての経験であり、自分の力でまとめることに課題があった。

「固有種が教えてくれること」では、本文と資料の関係を捉えたり、資料の効果について考えたりした。そ

して、事例と意見の關係に着目した読み取りをし、要旨を把握し文章にまとめた。加えて、要旨を共有した。読み合う中で友だちや自分の意見や書きぶりの良さを見付け、さらに自分の書いた文章を読み直し加筆修正を行った。

これまでの要旨を把握し文章にまとめる学習の達成度としては、6割程度の児童ができています。しかし、中には自分の考えを中心に述べてしまったり、事例を取り上げすぎて定められた字数を超えてしまったりする児童もいて定着が十分であるとは言えない。

自らが計画を立てて学習を進めていくことは、国語科や理科の学習において経験している。単元の1時間目に、身に付けたい力、知りたいこと、調べたいことを基に学習計画を考えた。既習事項や自分の経験をもとにして一人一人が計画を考え、それを交流しながら学級全体の学習計画を作った。自分で計画を立てて学習を進めることに徐々に慣れてきている。

本単元の学習を通して、児童がより主体的に学習に取り組むこと、要旨を把握し文章にまとめる際のポイントを理解し、身に付けたい力に自信をもって学習することができるようになってほしいと考える。

(2) 学習材について (学習材観)

本学習材は、メディアから出される情報を正確に受け止めるためにはどんな努力が必要であるかを、述べた説明文である。「マラソン大会の事例」「図形の見え方の事例」「サッカーチームの監督就任についての報道の事例」という三つの事例から導き出された意見が書かれており、想像力のスイッチを入れるためには、「まだ分からない」「事実かな、印象かな」「他の見方もないかな」「何がかくれているかな」という四つの観点が必要であると分かりやすく示している。筆者の主張が双括型で述べられているため、筆者の主たる意見も捉えやすい。2学期に「見立てる・言葉の意味が分かること」で要旨を捉える学習は行っているが、再度学ぶことで要旨を把握する力を定着させたいと考えた。

(3) 単元について (単元観)

本単元の主たる目標は「事実と感想、意見などとの関係を叙述を元に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。」である。5年生で説明文として学ぶのはこの学習材が最後なので、児童自らが学習課題、学習内容、学習方法を考えてから学習計画を立てる。児童によって学習計画は異なることが予想されるが、交流する時間を随時とることで、児童同士の話し合いにより、修正させていく。そうすることで、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習ができると考えた。学習課題は「①筆者の主張を捉える(要旨を捉える)」「②想像力のスイッチとはなにか。」が挙がるだろうと推察され、「想像力のスイッチとは何かを考え、要旨をとらえよう」と、部会では仮におさえた。また、学習内容は、意見とそれを支える事例との関係を考えること、論の展開、文章の構成を理解すること、要点から要旨を考える、要約から要旨を考える、などが盛り込まれると思われる。さらに、学習方法もサイドラインや付箋を用いたり、図や表に表したりすることなどを考えた。要旨を捉えるために子ども一人一人が違う学習計画で学んでいくが、上手に事例を取り挙げられず筆者の主張だけを書いたり、筆者の主張に自分の考えを入れたりなど、修正が必要な児童も出てくると考えられるので、単元の終末には友達と要旨を読み合うようにする。さらに、友達と要旨を読み合う中で、筆者の主張として選んだ部分や事例の取り入れ方を比べたりすることで、違いに気が付いたり、よさを感じたりさせていきたい。

4 都小国研多摩地区研究会読むこと部でとらえる言葉による見方・考え方を働かせるとは

学習指導要領には、言葉による見方・考え方を働かせるとは、次のように記されている。「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」これを基に、多摩地区研究会読むこと部会では、児童が実際に説明的な文章を学習する場面をイメージし、以下のように具体化した。

- 自分の考えを言葉で考える。(以下言葉による見方・考え方A)
- 考えたことを言葉で伝える。(以下言葉による見方・考え方B)
- 言葉の意味を文脈から捉える。(以下言葉による見方・考え方C)
- 叙述から捉えた内容を、別の言葉で言い換える。(以下言葉による見方・考え方D)
- 既習の知識、情報を関連付けて言葉で表現する。(以下言葉による見方・考え方E)
- 体験と関連付けて言葉で表現する。(以下言葉による見方・考え方F)

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

a 学習課題の工夫

都小国研読むこと部の研究主題「自立した学習者」を、多摩地区研究会読むこと部では、既習の学習経験や学習材で書かれているテーマを基に、「本単元で身に付けたい力を自覚し、そのために必要な学習内容や学習計画の見通しをもって学びに向かう児童の姿」として捉えた。

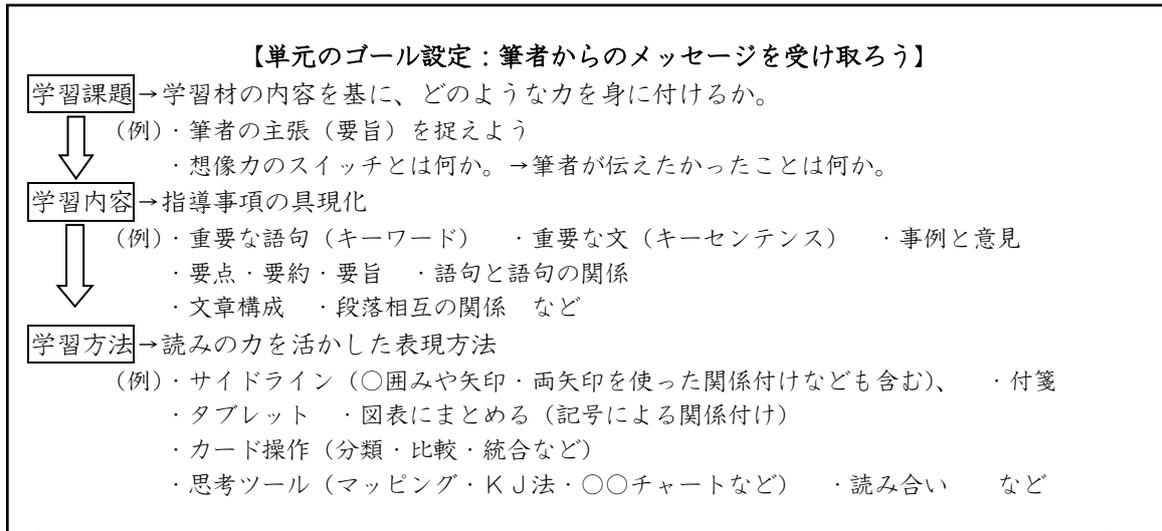
本単元は、5年生最後の説明的文章の学習として位置付けられている。単元を中心となる指導事項を、「要旨を捉えること」に設定した。また、要旨を捉えるために発揮したい「言葉による見方・考え方」として、「叙

述から捉えた内容を別の言葉で言い換える」ことや「自分の考えたことを言葉で伝える」ことに重点をおいて単元計画を作成した。

これらの「言葉による見方・考え方」を活かしながら、本単元では児童が自らの学習経験やそのとき明らかとなった自己の課題点や問題点などを振り返り、自分の力で学習課題が立てられるようにすることを狙った。そのために、教師側からの意図的な単元導入時のきっかけづくりを控え、児童一人一人が自分自身と向き合えるような学習機会を設定した。

b 「読みの視点」の共有と学習計画作成に向けた3つの柱の提示

児童が主体的な学習者として自ら課題を設定して学習を進められるように、第一次に学習計画を立てる時間を設けた。その際、児童が見通しをもてるようにするために、3つの柱（学習課題・学習内容・学習方法）を提示した。児童は、この3つの柱を手がかりとしながら、既習の学習経験を基に計画を立てられるようにした。その際、既習事項をいつでも確かめられるように教室に掲示したり、手引きとして手元に準備したりして、学習環境を整えた。このように環境を整えることで、児童が自ら学びを進める上で有効だと考えた。



～学習を支える土台となる既習事項～

<p style="text-align: center;">【要点のまとめ方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 段落の中で中心となる語や文を見つける。 2 同じ意味の言葉を見つけ、つなげたり短く一文にまとめたりする。 	<p style="text-align: center;">【要約のまとめ方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 要点を何度も読み、残す部分を考える。 2 文と文のつながり方を考えて文章にする。 3 読み返して必要に応じて修正する。 <p style="text-align: center;">【要約のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆指示語を使い、短くまとめる。 ☆短い言葉に言い換える ☆筆者の伝えたいことを押さえて書く。 	<p style="text-align: center;">【要旨のまとめ方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例と意見を区別する。 2 キーワードとなる言葉を考える。 3 文末表現に気を付けて、筆者の主張が書かれている部分を見つける。 4 「中」の部分で中心となる事柄を短く整理して入れながら、筆者の主張をつなげたり短くまとめたりして書く。
---	--	---

(2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

a 交流活動の工夫

都小国研読むこと部の提案を基に、多摩地区読むこと部では、「他者と協働する」とは「文章中の言葉を媒体として多様な考えに触れることで、自分の考えを深めたり見直したりすること」であると考えた。本単元では、学習課題「筆者の主張(要旨)を捉える」に対する自分の考えをもつために学習材を読み進めていく。学習計画や手がかりとする読みの視点の選択は児童自らが決定していくが、個人で学習を進めていく上で「本当にこれで学習課題が解決できるのか。」「この計画で、筆者の主張を捉えることができるのか。」など不安を抱くことが予想される。このようなとき、児童は自然と友達との交流を望み、目的意識をもって充実した交流活動が実現すると考えた。

また、第二次で児童がそれぞれ選択した学習内容を基に学習を進めていく際にも、学習の途中にいろいろな友達とすすんで交流し、互いに読み合っていて気付いたことをアドバイスしたり、必要に応じて学習内容を追加・変更したりして児童が自ら学習内容の調整を行う時間を設定する。このような学習活動を積み重ねていくことが、「自立した学習者」を育む上で、非常に重要であると考えた。

b 発問の工夫

本単元では、筆者の要旨を捉えるために、今までの説明的な文章の学習で身に付けてきた「学び方」を活用し児童自ら学習計画を立て、学習を進めていく。ただし、その過程において児童が論理的思考を働かせて学習材を読むことができているのかを確かめるために、学級全体の場で自分の読みを立ち止まって振り返る時間

を適宜設定する必要があると考えた。

そこで、第一次で学習計画を立てるときや第二次で学習材の内容を捉える際、児童に「なぜ、そのように考えたのか。」「(学習材の)どの部分から、そう考えたのか。」などと発問する。このように問いかけることで、叙述を根拠としながら児童が自分の論理的思考の過程を言語化できるように促していく。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元の学習を通して、今までの学習で身に付けてきた重要な語句や文を基に要点を整理したり要約したりする力、段落相互の關係に気を付けて事例と意見を捉える力を、より確かなものにしていくことを目指した。さらに、要旨を捉える力や要旨に対する自分の考えを言葉で表現する力の定着を図り、児童の論理的な思考力を高めていくことを目指した。

獲得したこれらの力を活用し、自分の思いや考えを言葉を使って論理的に表現できるようになると、周囲の人と互いの思いや考えをより分かり合えるようになり、生活がさらに豊かなものになると考えた。また、日常生活で触れる機会の多い説明的な文章から必要な情報を適切に捉えて自分の生活に生かしたり、意見文などへの自分の考えを事例や根拠を挙げて論理的に表現することで社会の一員としての意識を高めたりすることにもつなげていけると考えた。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
第一次	1	1 これまでに学習した説明文について振り返る。	○説明文を学習したときに着目したこと、できるようになったこと(既習事項)を確認し、要旨を書く時に困ったことについても振り返らせ、今回の単元につなげる。	
		2 「想像力のスイッチを入れよう」を読む。 ・この学習材を通して、どのように学習したいか考える。	○今回の単元が5年生で最後の説明文になるため、これまでの学習を生かしながら学習課題や学習活動を自ら選択して学習を進めていくことを示し、児童の興味関心を高める。	
		3 学習課題について考える。	○学習材の内容を基に、どのような力を身に付けられるか学習材を読み返し、学習課題を考えるように伝える。	言葉による見方・考え方A
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【予想される学習課題】 ・想像力のスイッチとは何か。 ・要旨を捉える。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 事例と意見の關係に気を付けて読もう ～筆者からのメッセージを受け取ろう～ </div>	

2 本 時	<p>1 学習課題を基に学習内容や学習方法を考え、計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例と意見の関係 ・要点、要約 ・段落相互の関係 ・文章構成 ・キーワード、言葉をつなげる ・重要な語句の取り出し ・語句と語句の関係 </div>	<p>○要旨を捉えるために、既習の学習内容、学習方法を基に自分だったらどのように学習していくかを考えるように伝える。</p> <p>○学習材の特性に合わせて学習内容を考えられるように学習材を何度も読むように促す。</p> <p>○必要に応じて丸で囲んだりサイドラインを引いたりしながら、どのようなことに気を付けながら読んでいくか、自分なりに学習計画を考えるように伝える。</p>	<p>言葉による見方・考え方A</p> <p>言葉による見方・考え方E</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイドライン (丸で囲む 関係付けるなど) ・付箋 ・相手に伝える。(読み合う) ・図表にまとめる。 (記号で関係付ける) ・カード操作 (分類、比較、統合など) ・タブレット </div> <p>2 自分が立てた計画を友達と交流し、自分の考えを見直したり、加筆修正したりする。</p>		<p>◆【主】</p> <p>筆者の主張を捉えるために、既習を生かしたり友達と交流したりして、自ら学習計画を立てている。</p> <p>★観察・ノート</p>
第二次 3 ・ 4	<p>1 自分の立てた学習計画を基に学習課題を解決するために、事実と意見の関係や要点・要約などを捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される学習活動A】</p> <p>○事例と意見の関係、文章構成に着目して要旨をまとめる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される学習活動B】</p> <p>○事例と意見の関係、要点・要約をして要旨をまとめる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される学習活動C】</p> <p>○要点・要約、文章構成を捉えて要旨をまとめる。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>1 筆者の意見と事例に色別でサイドラインを引く。</p> <p>2 筆者の意見と事例について表にまとめる。</p> <p>3 文章構成を整理し、筆者の主張を捉える。</p> </div>	<p>○要旨を捉えるために、自分の立てた学習計画で読み進めていけるように手順を確かめる。</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p>1 中心となる語や文(キーワード)にサイドラインを引き、要点を捉える。</p> <p>2 中心となる語や文(キーワード)を丸で囲み、要点を捉える。</p> <p>3 事例ごとに要約し、筆者の主張を捉える。</p> <p>4 必要に応じて交流し、変更調整する。</p> <p>5 要旨をまとめる。</p> <p>6 要旨に対する自分の意見を書く。</p> </div>	<div style="margin-top: 10px;"> <p>1 中心となる語や文(キーワード)にサイドラインを引き、要点を捉える。</p> <p>2 事例ごとに要約する。</p> <p>3 文章構成を整理し、筆者の主張を捉える。</p> </div>

		<p>○筆者の意見を見つけるために、文末表現や接続語、強調している表現、『』に注目することを確認する。</p> <p>○事例と意見の関係に着目するときに、具体的な説明が筆者の意見を支える根拠になっていることを確かめさせる。</p> <p>○想像力のスイッチとは何かを考えながら、それぞれの事例からキーワードになる語や文を見つける。</p>	<p>言葉による見方・考え方C</p> <p>言葉による見方・考え方D</p> <p>◆【知・技】 複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりして、文章に書かれている事柄を整理したりまとめたりしている。 ★ノート、タブレット</p>	
		<p>○必要に応じて友達と交流することで、自分の読みを振り返り、学習内容や学習方法を追加したり変更したりしながら自分の読みを調整していくことを伝える。</p>	<p>◆【思・判・表】 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえている。 ★ノート、タブレット</p>	
	5	<p>1 要旨をまとめる。 (200字以内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の話題を確かめる。 ・キーワードに着目し、必要な言葉を見付ける。 ・意味が通るように言葉をつなげてまとめる。 <p>2 要旨を友達と読み合い、加筆修正する。</p>	<p>○自分の読みを振り返り、前時までに整理した内容を参考にしながら筆者からのメッセージを要旨としてまとめる。</p> <p>○友達との交流を通して、自分の要旨の良さに気付かせたり、友達の良いところを自分の文章に生かしたりするように伝える。</p>	<p>言葉による見方・考え方B</p> <p>言葉による見方・考え方D</p> <p>言葉による見方・考え方E</p> <p>◆【思・判・表】 文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ★タブレット</p>
第三次	6	<p>1 筆者のメッセージ(要旨)に対する自分の意見を書く。</p> <p>2 友達と交流し、必要に応じて加筆修正する。</p> <p>3 要旨を捉えるために、どのような学び方を行ったのか振り返りを行う。</p>	<p>○筆者の主張に対する自分の考えについて根拠を基に書くように伝える。</p> <p>○友達と自分の考えを共有することで互いの意見の良さに気付くように伝える。</p> <p>○自分の学習計画を振り返り、要旨を捉える時に大切なことを自分なりに振り返るように伝える。</p>	<p>言葉による見方・考え方A</p> <p>言葉による見方・考え方B</p> <p>言葉による見方・考え方F</p>

7 本時の学習 (2時間目/6時間中)

(1) 本時のねらい

学習課題を解決するために、既に学んだことを生かしたり友達と交流したりして、自ら学習計画を立てる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時に決めた個人の学習課題を確認する。	○前時に書いた学習課題をノートで確認させる。	
筆者からのメッセージを読み取るための学習計画を立てよう		
2 学習課題を基に学習内容や学習方法を考え、計画を立てる。(個別学習) (ノート) ①何度も教材を読む。 ②教材(全文シート)に書き込む ③自身の計画に不安を感じている児童は友達に相談をする。	○タブレットにある既習事項や手引きを基に、学習計画を立てることを伝える。 ○学習材を何度も読んだり、必要に応じて書き込んだりして計画を立てることを促す。 ○児童の取り組んでいる課題が誤った方向に進んでいないか、行き詰っていないか、机間指導をして確認する。 ○進行状況が不安な児童は他の児童に確認できる時間を設ける。 ○交流のときに言語化することで自分の考えを明確にする。	<p>研究主題に迫る手立て A 自分の考えを言葉で考える。</p> <p>研究主題に迫る手立て E 既習の知識、情報を関連付けて言葉で表現する。</p> <p>◆【主】 筆者の主張を捉えるために、既習を生かしたり友達と交流したりして、自ら学習計画を立てている。</p> <p>★観察・ノート</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;"> <p>【予想される学習計画A】 ○事例と意見の関係、文章構成に着目して要旨をまとめる。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>【予想される学習計画B】 ○事例と意見の関係、要点・要約をして要旨をまとめる。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>【予想される学習計画C】 ○要点・要約、文章構成を捉えて要旨をまとめる。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>1 筆者の意見と事例に色別でサイドラインを引く。</p> <p>1 中心となる語や文(キーワード)にサイドラインを引き、要点を捉える。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>2 筆者の意見と事例について表にまとめる。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>2 中心となる語や文(キーワード)を丸で囲み、要点を捉える。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>2 事例ごとに要約する。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>3 文章構成を整理し、筆者の主張を捉える。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>3 事例ごとに要約し、筆者の主張を捉える。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>3 文章構成を整理し、筆者の主張を捉える。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>4 必要に応じて交流し、変更調整する。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>5 要旨をまとめる。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>6 要旨に対する自分の意見を書く。</p> </div>		
3 自分が立てた計画を友達と交流し、自分の考えを見直したり、加筆修正したりする。(グループ学習) (ノート)	○交流することで、友達との考えの共通点や相違点に気づき、自分の立てた計画を確認し自信をもたせる。	○要旨を捉えるために、自ら学習計画を立て、既習を生かしたり、友達と交流したりして、粘り強く学習を進めている。
4 本時の振り返りをする。自分で立てた学習計画を発表する。(友達の発表を聞き、必要があれば加筆修正をする。)	○友達の学習計画の共通点や相違点を知ることで、自分の計画を認めるよう伝える。 ○自分で学習計画を立てたことを振り返り次時の学習の見通し(意欲)をもたせる。	

